

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	森林ふれあい事業	会計	一般会計	事業No.	444	施策順No.	54-005
		事業種別	政策・重点	予算科目	6-2-2-27-5		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	林務課		
施策	54 自然とのふれあいと環境学習の推進			事業期間	開始	終了	

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		飯田市の人口(人) (H22.10.1推計人口)		107259	105691	105036		
	意図	森林に親しむ。 自然環境の重要性を啓発する。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	市民の参加者数	2600	2580	2130	3500	5000	3500	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		天气に恵まれ、多くの参加者が来場した。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	市民が自然とふれあいながら、様々な体験を通して自然の大切さ、環境保全の大切さを学ぶ。また、親子のふれあいの場とする。 1 野底山森林公園まつり実行委員会運営事業 2 飯田市育樹祭実行委員会運営事業		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 野底山森林公園まつり イベント内容(緑化木頒布、森の産物体験即売、親子木工体験、花木等即売、ごみの分別資源の有効活用、簡易製材機実演、野底ウォーク、ツリークライミング、竹で楽器作り、その他) 2 飯田市育樹祭	1 実行委員会・幹事会開催回数 参加者数 2 参加者数	1 4回 約5,000人 2 80人
23年度実施計画	1 野底山森林公園まつり イベント内容(緑化木頒布、森の産物体験即売、親子木工体験、花木等即売、ごみの分別資源の有効活用、野底ウォーク、ツリークライミング、竹で楽器作り、その他) 2 飯田市育樹祭 52施策 体験と交流の森づくり事業を統合	1 参加者数 2 参加者数	1 約3,000人 2 80人

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)			特定財源内訳、補足事項
		22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	
	国庫支出金				
	県支出金				
	起債				
	その他				
	一般財源	1,097	1,097	1,137	
	計(A)	1,097	1,097	1,137	
	正規職員所要時間				
	臨時職員等所要時間				
	人件費計(B)		0		
	トータルコスト A+B		1,097		

4 事業に対する市民や議会の意見

自然や森林に手を入れることが大切だと実感してもらっている。森林の持つ癒しの効果や地球温暖化防止など、市民の関心度は高くなってきている。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	自然とのふれあいや環境学習から環境意識が向上する	施策の成果指標又はムトス指標	自然とのふれあいを持ったことのある市民の割合 環境学習会に参加したことがある市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	実行委員会を組織して、能動的に開催された。		
	後期に向けた課題	森林公園を、指定管理者制度へ移行して、民間主導体制を推進する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	催事開催により、市民に親しんでもらえた。		
	後期に向けた課題	森林公園のPRを充実させていく。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	催事に対する市からの負担金は、年々減額している。		
	後期に向けた課題	事務を、実行委員会内の民間団体に委ねることもできる。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	催事に参画する各種団体が、これを機会に連携を強めた。		
	後期に向けた課題	実行委員会が自立できることが望ましい。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してありましたか	4年間の振り返り	実行委員会には、森林をキーワードに多様な主体が関わっており、横のつながりを深めている。行政は、相応した応援ができた。		
	後期に向けた課題	細かく面倒なことなどを行政に「おまかせ」するのではなく、多様な主体の協働と総合力で催事運営できるよう、支援していく。		
全体を通じて	4年間の振り返り	屋外催事は天候に左右され、規模や内容が変化するが、毎年恒例として実施することで、森林への関心等に一定の効果을上げていく。		
	後期に向けた課題	森林の活用をより一層広めて、市民の理解を深めるしくみが求められる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------